

市川市議会は毎年2月、6月、9月、12月に定例会を開きます。市議会だよりは5月、8月、11月、翌年2月に各定例会号を発行(新聞折り込み)し、審議内容をお知らせしています。



賀正

平成三十年 戊戌



新行徳橋から払暁を望む

山積する市政の諸課題に全身全霊で取り組みます

市議会議長 松井 努
市議会副議長 堀越 優

明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、夢と希望に満ちあふれた輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃より、市政運営並びに市議会活動に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、スポーツ界では、1月に大相撲の稀勢の里関が19年ぶりとなる日本出身横綱に昇進したことに始まり、卓球、バドミントン、柔道など各種目で日本選手の活躍が光りました。今年2月に開催される平昌オリンピック・パラリンピックでも、日本代表選手のメダル獲得が大いに期待される所です。

また、我が国の経済情勢については、着実にデフレ脱却が見えているものの、個人消費や設備投資といった民間には足踏みが見られております。こうした中で、国政において、昨年10月末に行われた衆議院の解散・総選挙により発足した第4次安倍内閣は、今後、経済の成長軌道を確かなものとし、少子高齢化の克服に向け、幼児教育の無償化、待機児童の解消をはじめとした子育て世代への投資と社会保障の安定化をバランスよく進めるとしています。

さて、市政に目を転じますと、昨年は、新たな市民会館となる全日警ホールや大和田ポンプ場、北市川運動公園など市民の暮らしをより豊かにする施設が次々と完成しました。

そして今年、東京外郭環状道路の千葉区間の開通が予定されています。これにより、昨年の都市計画道路3・4・18号の全線開通と併せて、かねてからの課題であった南北交通の利便性向上による渋滞の緩和や、生活道路の交通量減による安全性の向上、さらに防災空間としての機能や緑地環境の創出などさまざまな効果が期待されております。また、道路開通に合わせて開業予定の「道の駅」には、道路利用者と地域住民の双方の集いの場となり、市川市の魅力を発信する拠点となることが期待されます。

しかし、少子高齢社会が深刻化する中、私たちが取り組むべき社会環境は厳しさを増しており、社会保障や待機児童対策など取り組むべき市政の課題は山積しております。私も市議会議員は、市民の皆様のご代表であることをご自覚し、一人ひとりが危機感を持って、これらの課題に向き合っていくかなければなりません。昨年11月に行われた市長選は再選挙となる異例の事態となりましたが、私も市議会は二元代表制の一翼を担う存在として、誰もが市川市に住んでよかったと感じていただけるまちづくりを目指し、引き続き全身全霊で取り組んでまいります。市民の皆様におかれましては、更なるご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。